

# F3RP61 の使い方レシピ

J. Odagiri (KEK)

# F3RP61 (RP と略す) の4つの使い方

- RP と I/O モジュールのみ
  - VME のような 汎用 I/O コントローラとして
- RP とラダー CPU の併用 (RP が主役)
  - インタロックのみをラダー CPU に委ねる
- RP とラダー CPU の併用 (RP は脇役)
  - インタロックがメインで RP は状態モニタに専念
- RP が FL-net のノードの一つとして参加
  - 大規模インタロック (特に人的保護) の状態モニタ

# RP のみで制御

- I/Oモジュールを RP (EPICS) が直接叩く



# RP が主役

- インタロックだけをラダーCPUに委ねる

RP専用(制御全般)



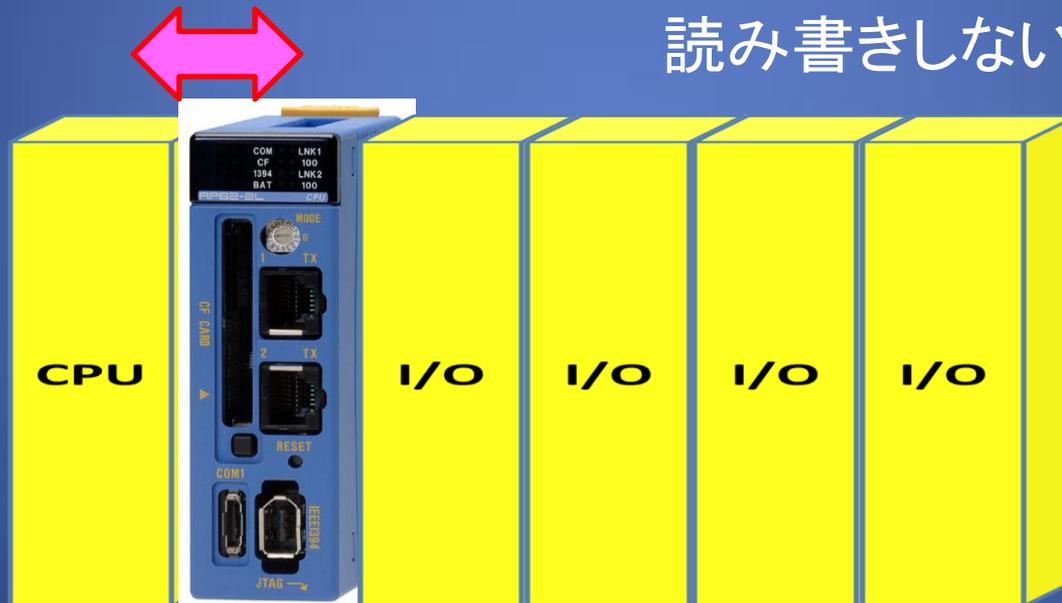
ラダーCPU  
(インタロック)専用

# RP は脇役

- インタロックのステータスのモニタ

共有メモリを介した通信

RPはIOモジュールを  
読み書きしない



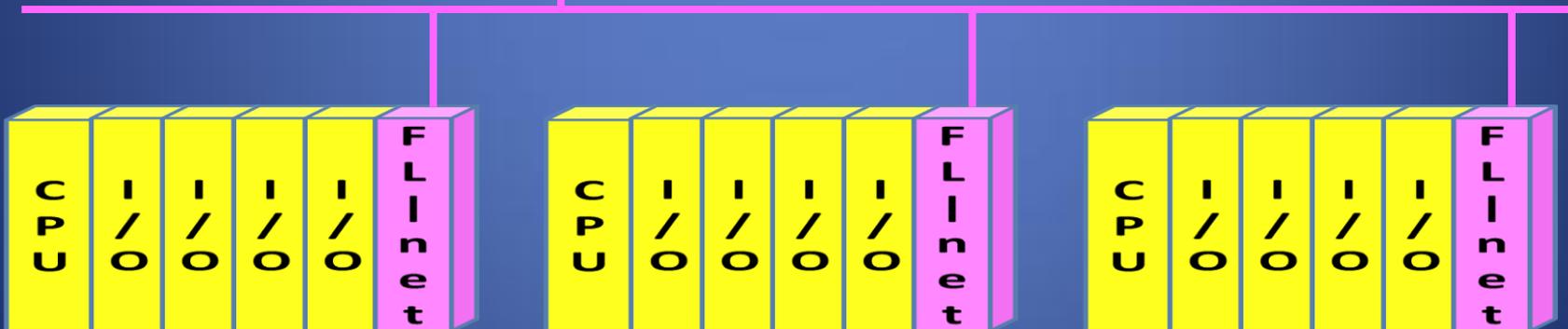
上位への通知は変化があったときのみ  
(EPICSのモニタ機能)

# RP は FL-net のノードの一つ

- 人的保護を目的としたインタロック状態のモニタ



RP (EPICS) からの書込みが絶対に不可能なシステムを構築可能



シーケンスCPUはFL-netに書き込むだけで読み込まない

# まとめ

- RP を主体とする汎用コントローラとして使う場合から、複数のラダー CPU が主役を務める大規模インタロックシステムとの仲介役まで、目的と用途に合わせて柔軟な構成が取れる
- 何れの場合においても、外付けの PC 等を IOC として用いる従来方式に較べてメリットがある